

令和3年度 さいたま市立新開小学校 学校関係者評価書

さいたま市立新開小学校

学校関係者評価委員長 大貫 充

1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

10名

(2) 実施回数

2回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

(1) 学校評価アンケートについて

- ・教職員が児童に真剣に指導している様子が伺えます。「授業が楽しい」「分かりやすい」「話をしっかり聞いてくれる」などの楽しい学校生活が送られているようです。
- ・肯定的な回答が多く、同感とともに安心しました。良い評価は学校の指導の成果だと思えます。さらに成果を上げるために、評価の低い項目をいかに向上させるか、具体的の方針として示し、指導していただきたい。
- ・ここ数年は社会も教師も保護者の方も変化が激しく試行錯誤の繰り返しで、落ち着いてじっくりとしていられない状態で大変だと思えます。オンラインのハイブリット授業は本当に本当に大変だったと思えます。
- ・業務改善に対する評価が下がっていますが、何に対する改善か、効果は何かがよくわかりません。

(2) いじめ防止について

- ・「いじめはいけないこと」と理解していると思えますが、ささいな言動がきっかけになることもあると思えますので、家庭・学校で定期的に話題にしてもらいたい。
- ・日頃からコミュニケーションを大事にし、個人の性格を知っておく必要があると思えます。
- ・いじめは、被害者・加害者だけのものだけではないところも把握することが肝要です。加害者も被害者も誰かに相談できる環境（信頼関係）を築くことが必要に思えます。
- ・行事を通して、より深い友情を育めるとよいと思えます。
- ・悩みや困ったこと、トラブルなど早急に対応している「おひさまデイ」「なかよし面談」などを大いに進めてもらいたい。

(3) 教育活動全般について

- ・日頃の子どもたちの元気な声や通学風景を見ていると嬉しく思います。子どもたちにはいっぱい体を動かして大きな声を出してハツラツと笑顔でいてほしいです。学校教育目標の推進と、児童が新開小学校で良かった、学校に行くのが楽しいと思える教育活動・環境づくりをお願いしたい。
- ・新しい時代に対応できる組織改革が必要です。次年度に向けての改善策を是非進めていただきたい。教職員の健康管理の面からも業務改善を積極的に行い、ゆとりのある指導ができる体制を作っていただきたい。
- ・社会及び児童の家庭環境を見つつ、地域との連携をさらに強化し、安心・安全で楽しい学校生活を送れるよう体制を作っていただきたい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- 児童・保護者からは授業に対して良い評価をいただいたが、今後も研修課題として一人一台タブレットの効果的な活用を位置付け、学習の楽しさ・学習内容の定着が図れるような授業実践を推進していく。また、働き方改革による業務改善を積極的に推進し、児童に向き合う時間の更なる確保に努め、安心して通うことができ、学校に行くのが楽しいと思ってもらえるような体制を強化していく。
- 児童と担任との面談日数を令和3年度に比べ約2倍に増加し、日頃のコミュニケーションに加え、定期的な面談実施で状況を把握することで、より一層の「不登校・いじめの予防・早期発見」の対応を目指す。教職員・家庭が連携して対応するとともにSC、SSWともつながり、必要に応じて関係機関とも積極的に連携していく。
- コロナ禍での行動制限、オンライン授業等、教育環境が大きく変化している。試行錯誤を繰り返しながら、児童にとって何が望ましいのかを考え、対応できる組織づくりを推進していく。また、感染対策や開催方法を工夫しながら、授業公開・学校行事を実施し、家庭・地域とのつながりを保てるようにしていく。

さいたま市立新開小学校長 白石 徳一郎